

教育研究業績

2019年5月1日

氏名：宮村 りさ子

学位：修士（健康心理学）

研究分野		研究内容のキーワード	
健康心理学 精神保健福祉		児童虐待防止、虐待認知、反芻、認知的統制、慢性疼痛、 ソーシャルサポート、QOL	
主要担当授業科目	高齢者福祉、心理査定法実習、心理療法概論、臨床心理学概論、教育相談、 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、精神保健福祉援助演習Ⅱ、福祉心理学演習、 ソーシャルワーク研究、卒業論文		
教育上の能力に関する事項			
事項	年月日	概	要

1 教育方法の実践例		
1) 面接技法・コミュニケーションスキルに関する講義及び演習における教育実践	平成19年4月1日～平成23年3月31日	<p>山野美容芸術短期大学で2年間、その後東京医薬専門学校で2年間合計4年間、カウンセリングの授業を担当した。授業では、対人援助の際に必要なカウンセリングとコミュニケーション、自己理解の講義を行い、その後ワークやロールプレイを取り入れることで、面接技法とコミュニケーションスキルを取得させた。それらの技法は援助する相手だけでなく、一緒に働く職員と円滑にコミュニケーションを取るためにも必要であると認識させたため、学生の授業への動機づけは高く、学生は意欲的に取り組んだ。また、毎回授業の終了時に、授業の感想や意見、質問などを任意で記入してもらった。学生が理解できなかった点、疑問に感じた点などを知ることができた。それらを次回の授業の始めに全体にフィードバックすることで、学生が授業をより理解できるように工夫した。</p>
2) 社会福祉士養成課程における社会福祉援助演習の授業実践	平成24年4月～現在に至る	<p>平成24年4月から平成26年3月まで2年間常盤大学コミュニティ振興学部にて、社会福祉士養成課程の科目である「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術演習Ⅱ」を担当した。その後、平成26年4月から昭和女子大学福祉社会学科にて社会福祉士養成課程の科目である「相談援助演習Ⅰ」を担当している。授業では、対人援助の際に必要な相談援助とコミュニケーション、自己理解、倫理や価値など社会福祉士養成課程のカリキュラムに沿った講義を行い、その後ワークやロールプレイを取り入れることで修得されて理解が深まっている。さらに、それらの技法は、援助する相手だけでなく、一緒に働く職員と円滑にコミュニケーションを取るためにも必要であると認識させている。それらのことから、学生の授業への動機は高く、学生は意欲的に取り組んでいる。また、毎回授業の終了時に、授業の感想や意見、質問などを任意で記入してもらっている。学生が理解できなかった点、疑問に感じた点などを知ることができる。それらを次回の授業の始めにフィードバックすることで、学生が授業をより理解できるように工夫した。</p>
3) 社会福祉士養成校における社会福祉士国家試験合格を目的とした教育実践	平成23年5月1日～現在に至る。	<p>大原医療秘書福祉専門学校社会福祉学科（夜間、集中）にて非常勤を行っている。担当科目は「心理学理論と心理的支援」である。中央法規出版株式会社が刊行している新・社会福祉士養成講座2「心理学理論と心理的支援」のテキストを使用しているが、他の心理学に関する書籍から図や表などを引用し、学生が理解しやすいようにプリントを作成している。学生が理解しているか確認するため、適宜小テストなどを行っている。</p>

<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>教材名「社会福祉士国家試験受験対策講座 2009 年度 早稲田大学第二文学部」</p>	<p>平成 21 年 11 月 14 日発行</p>	<p>早稲田大学第二文学部社会人間系専修の学生を対象に行われた平成 22 年度社会福祉士国家試験受験対策講座の教材を作成し、共通科目である「心理学理論と社会的支援」の科目を担当した。これまで各出版社から刊行されている過去問題集、模擬問題集など受験対策図書を参考に、出題頻度が高い項目を分かりやすくまとめた。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p>	<p>平成 24 年 4 月～現在</p>	<p>平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月まで 2 年間常磐大学にて、社会福祉士養成課程の科目である「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術演習Ⅱ」、「心理学」を教えた際、ほとんどの学生から「分かりやすい授業で、配布された資料も分かりやすかったため、授業に満足した。」と評価を受けた。</p> <p>平成 26 年 4 月から昭和女子大学福祉社会学科にて、社会福祉士養成課程の科目である「相談援助演習Ⅰ」を教えているが、ほとんどの学生から「授業の進め方が内容を理解する上で効果的であり分かりやすかったため、授業を良く理解できた。配布されたプリントも分かりやすかった。」と評価を受けた。</p>

<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p>		
<p>1) 特別講義等</p>		
<p>(1) 大宮医師会看護専門学校 36期生校外研修 人間関係論</p>	<p>平成19年5月 9日(水)～11日(金)</p>	<p>大宮医師会看護学校36期生 校外研修 人間関係論 2泊3日の校外研修(那須高原)にて非常勤講師として心理学を担当し、認知行動療法を教えた。最終日には、対人コミュニケーションに関するプログラムを行った。</p>
<p>(2) 千葉市立教育委員会 学校教育 部保健体育課 平成22年度 職員メンタルヘルス研修</p>	<p>平成22年12月</p>	<p>千葉市教員委員会学校保健部保健体育課から依頼され、教職員メンタルヘルス巡回訪問を非常勤で行い、小学校の教職員に対してメンタルヘルスと予防について講義をした。</p>
<p>(3) 平成29年度東京成徳大学応用 心理学部福祉心理学科公開シ ンポジウム「障がい者の就労に ついて考える -働く意義と価 値、QOLとQWL-</p>	<p>平成29年7月</p>	<p>平成29年7月22日(土)に東京成徳大学八千代キャンパスにて、東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科主催、日本福祉心理学会後援におけるシンポジウムを企画し、コーディネーターを担った。障がい者の就労支援に携わる3名のシンポジストが話題提供した。</p>
<p>(4) 平成29年度教員免許状更新講 習「子どもと教師のメンタルヘ ルス」</p>	<p>平成29年8月</p>	<p>小・中・高校教諭や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、事務職員、栄養士を対象にした教員免許状更新講習として「子どもと教師のメンタルヘルス」について講義とグループワークを行った。担当内容：①スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの定義と役割、それぞれの特徴と違い、②スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用方法、③児童や生徒、保護者への適切な関わり方、④不登校(傾向のある)児童や生徒への対応、④不登校(傾向のある)の児童や生徒がかかっていると想定される病気について</p>
<p>(5) 平成30年度教員免許状更新講 習「子どもと教師のメンタルヘ ルス」</p>	<p>平成30年8月</p>	<p>小・中・高校教諭や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、事務職員、栄養士を対象にした教員免許状更新講習として「子どもと教師のメンタルヘルス」について講義とグループワークを行った。担当内容：①スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの定義と役割、それぞれの特徴と違い、②スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用方法、③児童や生徒、保護者への適切な関わり方、④不登校(傾向のある)児童や生徒への対応、④不登校(傾向のある)の児童や生徒がかかっていると想定される病気について</p>

<p>(6) 千葉県芝山町教育委員会主催 家庭教育学級 講師</p> <p>5 その他</p> <p>① 社会福祉士国家試験受験対策 講座 (早稲田大学第二文学部社会人間 系専修)</p> <p>② 社会福祉士国家試験受験対策 講座 (桜美林大学 健康福祉学群 社会 福祉専修)</p> <p>③ 精神保健福祉士国家試験受験 対策講座 (桜美林大学 健康福祉学群 精神保 健福祉専修)</p>	<p>平成 30 年 12 月</p>	<p>芝山町内小中学生の保護者、PTA 連絡協議会、子ども会育成協議 会を対象に「自分の気持ちや考えを子どもにきちんと伝えていま すか?～アサーションでコミュニケーションを高めよう!～」と いう演題で講演を行った。</p> <p>社会福祉士受験対策講座 非常勤講師 担当科目 (1)「心理学理論と心理的支援」 早稲田大学第二文学部社会人間系専修の学生を対象に、平成 22 年 度社会福祉士国家試験受験対策講座を行った。社会福祉士・精神 保健福祉士共通科目である「心理学理論と心理的支援」を担当し た。これまでの国家試験問題と今後の傾向を各出版社から刊行さ れている過去問題集や模擬問題集をもとに、国家試験に出題され ると思われる項目を分かり易く講義した。</p> <p>社会福祉士受験対策講座 担当科目 (1)「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」 (2)「社会調査の基礎」 これまでの国家試験問題と今後の傾向を各出版社から刊行され ている過去問題集や模擬問題集をもとに、国家試験に出題される と思われる項目を分かり易く講義した。</p> <p>精神保健福祉士受験対策講座 担当科目「精神保健の課題と支援」 これまでの国家試験問題と今後の傾向を各出版社から刊行され ている過去問題集や模擬問題集をもとに、国家試験に出題される と思われる項目を分かり易く講義した。</p>
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要

1 資格、免許		
心理相談員	平成 15 年 8 月	中央労働災害防止協会 第 405051 号
認定心理士	平成 16 年 12 月	日本心理学会 第 12097
専門健康心理士	平成 18 年 12 月	日本健康心理学会 第 899 号
精神保健福祉士	平成 21 年 5 月	精神保健福祉士登録番号 第 42338 号
社会福祉士	平成 22 年 4 月	社会福祉士登録番号 第 130481 号
公認心理師	平成 31 年 2 月	公認心理師登録番号 第 20725
社会福祉士実習演習担当教員講習会（演習分野）修了	平成 22 年 8 月 6 日	一般社団法人社会福祉士養成校協会主催
社会福祉士実習演習担当教員講習会（実習分野）修了	平成 22 年 12 月 30 日	一般社団法人社会福祉士養成校協会主催
精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（演習分野）修了	平成 24 年 3 月 8 日	一般社団法人精神保健福祉士養成校協会主催
精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（実習分野）修了	平成 24 年 3 月 23 日	一般社団法人精神保健福祉士養成校協会主催
平成 27 年度スクールソーシャルワーカー基礎研修修了	平成 27 年 11 月 28 日（土）、29 日（日）	一般社団法人社会福祉士養成校協会と一般社団法人精神保健福祉士養成校協会との合同主催
ストレスチェック制度担当者研修修了	平成 28 年 8 月	中央労働災害防止協会主催
災害福祉支援活動基礎研修 2017 修了	平成 30 年 1 月	公益財団法人日本医療社会福祉協会主催

2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 平成 29 年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験「国家試験合格支援委員会」委員（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟）	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	執筆委員として、平成 29 年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験「精神保健の課題と支援」の科目 3 問を作問した。
(2) 平成 30 年度福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験「国家試験合格支援委員会」委員（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟）	平成 30 年 4 月 ～平成 31 年 3 月	執筆委員として、平成 30 年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験「精神保健の課題と支援」の科目 3 問を作問した。
(3) 2019 年度福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験「国家試験合格支援委員会」委員（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟）	平成 31 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	執筆委員として、平成 30 年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験「精神保健の課題と支援」の科目 3 問を作問した。
4 その他		
1) 競争的資金等の外部による研究（研究代表者）	平成 24 年 10 月 ～平成 27 年 3 月	一般社団法人日本健康心理学会 地域住民の児童虐待に対する意識と態度 -地域差の検討-
2) 競争的資金等の外部による研究（研究代表者）	平成 27 年 2 月～ 平成 28 年 3 月	一般社団法人日本健康心理学会 保護者を対象にした児童虐待の減少や防止のための心理学的子育て支援

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 明日へ翔ぶ 1－ 人文社会学の新 視点－	共著	平成 20 年 3 月	風間書房 全 416 ページ	(全体概要) 平成 14 年 12 月 26 日に信託設定された「公益信託松尾金蔵記念奨学基金（受託者：三菱 UFJ 信託銀行株式会社）」から奨学金を

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
				<p>獲得した学部生や大学院生が研究成果を報告するための研究論文図書である。</p> <p>(担当部分概要)pp185～201.</p> <p>ネガティブな反芻と認知的統制が抑うつに及ぼす影響：反芻は、持続的で循環的な抑うつの思考であり、ネガティブな感情を引き起こす。臨床場面においては、反芻することを止めることができないために、慢性化したうつ状態を呈した患者が多い。うつ病には認知療法が効果的であるが、反芻によって生じたうつ状態が認知療法によってどのような変化をするのか実証的に検証されていなかった。そこで、2週間に渡る縦断調査を行った。その結果、反芻によって生じたうつ状態は、認知療法によって軽減することが示された。2週間という短期間であっても、物事に対する考え方や捉え方を変えるスキルを身につけることで、嫌な出来事やストレスフルな状況に直面しても、うつ状態に陥らないことが示唆された。</p> <p>公益信託松尾金蔵記念奨学基金編</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
2. よくわかる健康 心理学	共著	平成24年8月	ミネルヴァ書房 全214ページ	<p>(全体概要)</p> <p>誰にとっても身近であるにも関わらず、国内において十分に周知されていない健康心理学に関する基礎理論から応用について、学部生や大学院生が理解できるように、分かりやすく多面的な視点で解説した。</p> <p>(担当部分概要) pp26～27.</p> <p><わかる>シリーズから刊行され、大学や短期大学における健康心理学の講義の際に、活用されることを期待して作成された。ストレスコーピングの概念、ストレスコーピングの分類、ストレスコーピングと生活習慣病について、解説や表の挿入、最近の研究を紹介するなどして、分かりやすく解説した。</p> <p>森和代・石川利江・茂木俊彦編</p>
(原著論文) 1. 保育士育成校でのグループワークによる虐待認知の変化 -身近な事例を用いたロールプレイニングでの検討-	共著	平成29年3月	桜美林大学大学院心理学研究科	<p>久米 喜代美・<u>宮村 りさ子</u>・塩澤 史枝・森 和代・石川 利江・江藤 志穂美</p> <p>保育養成校に通う学生を対象に、身近な事例をロールプレイングで再現し、グループワークの効果を検討することを目的とした。①学生群のグループワーク前後の比較②社会人群のグループワーク前後の比較③学生群と社会人群グループワーク変化量の比較④ロールプレイング群演者の検討⑤テキストマイニングの検討を行った。その結果、①「心理的虐待」は有意な傾向であったものの、「身体的虐待」「ネグレクト」「性的虐待」における虐待認知は変化したことが明らかになった。④「身体的虐待」「ネグレクト」「性的虐待」にお</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>(紀要)</p> <p>1. 福祉心理学科公開シンポジウム「障がい者の就労について考える -働く意義と価値、QOLとQWL-」報告</p> <p>2. キャンパス内で活躍できるリーダーの養成に関するプロジェクト</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成30年3月</p> <p>平成30年3月</p>	<p>東京成徳大学研究紀要・人文学部・応用心理学部 第25回</p> <p>東京成徳大学研究紀要・人文学部・応用心理学部 第25回</p>	<p>る虐待認知の変化が確認できた。②7割が子育て中の母親であることも踏まえ、全ての因子が認められなかった。また、グループワークの効果を確認するために検討した③学生群は社会人群に比べて有意な傾向であったが、明確な効果は得られなかった。</p> <p>桜美林大学心理学研究 Vol. 7, pp107-pp116.</p> <p>宮村 りさ子・中尾 文香・峰島 茂光・秋山 巧・中山 哲志</p> <p>平成29年7月22日(土)に東京成徳大学八千代キャンパスにて開催された「東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科公開シンポジウム2017」を報告した。</p> <p>東京成徳大学研究紀要第25回 pp105-pp123.</p> <p>別府 さおり・宮村 りさ子・中瀬 雄三・菊池 春樹・朝比奈 朝子</p> <p>東京成徳大学八千代キャンパス内外で活躍できるリーダーの養成を目的としたプロジェクトについて報告した。授業とリンクさせた発展的な学生の学びを支援、授業外でのボランティア活動やリーダー養成に参加を促し、スーパービジョンを行った。ボランティア活動をしたことによって、ボランティアの意義を学び、地域社会へ主体的に貢献し、社会的役割や社会性を養うことができた。</p> <p>東京成徳大学研究紀要第25回 pp166-pp170.</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>(教職課程年報 実践報告)</p> <p>1. 2018 (平成 30) 年度千葉県内の小中高校におけるスクールカウンセラー活用状況について</p> <p>(学術論文)</p> <p>1. 修士論文 題目：ネガティブな反芻と認知的統制が精神的健康に及ぼす影響 -縦断的調査による検討-</p> <p>主査：石川利江</p>	共著	平成 31 年 3 月	東京成徳大学教職課程年報 第 2 号	<p><u>宮村 りさ子</u>、関谷 大輝</p> <p>2018 (平成 30) 年 8 月 6 日 (月) に東京成徳大学八千代キャンパスにて小中学校・高等学校・特別支援学校教諭・養護教諭・栄養教諭 48 名 (男性 10 名、女性 38 名) を対象に「子どもと教師のメンタルヘルス」という題目で、2018 (平成 30) 年度教員免許状講習を実施した。スクールカウンセラー (以下 SC) とスクールソーシャルワーカー (以下、SSW) の定義と役割、それぞれの特徴と違いについて講習を行った後、SC と SSW の活用方法についてグループワークを行った。その結果、千葉県内において、SC と連携や協働している小中高校の教員は多く、児童生徒や保護者、教員の多くが SC と連携や協働することに対するメリットや効果を感じていることが分かった。しかしながら、SC が配置されているにも関わらず、SC と連携や協働できていない学校や教員がいることが分かった。</p> <p>東京成徳大学教職課程年報 第 2 号 pp36-41.</p> <p>ネガティブな反芻と認知的統制が精神的健康に及ぼす影響について、縦断調査による検討を行った。その結果、ネガティブな反芻をコントロールできない状況においても、効果的な問題解決の方法を探そうとするスキルや実際に対処するスキルを持つことで、うつ状態が有意に軽減される</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
副査：森和代・ 杉澤 秀博 (その他) 1. 精神保健福祉士 国家試験模擬問 題集 2013	共著	平成 24 年 8 月	中央法規出版	<p>ことが示唆された。また、ネガティブな反芻をコントロールできない状況において否定的に考えないようにするスキルを持つことで、うつ状態が有意に軽減されることが示唆された。したがって、早期の段階で反芻をしていることに気づくことによって、ネガティブな反芻している状態を客観視することで、うつ状態が軽減されることが分かった</p> <p>(全体の概要)</p> <p>平成 25 年度の精神保健福祉士国家試験は、新カリキュラムに基づいた初めての国家試験である。新科目に対応した上で、近年の制度改正など、最新の動向も十分に加味した形で、実際の国家試験に出題される問題数と同様に、専門科目・共通科目全 163 問の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験合格に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図書である。</p> <p>(担当部分概要)【問題編】 pp170～173 (3 回目問題 73,75,79,80)。【解説編】 pp189～193 (3 回目問題 73,75,79,80)。</p> <p>精神保健福祉士「精神障害者の生活支援システム」の科目を担当した。法改正された事項、社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
2. 社会福祉士国家 試験模擬問題集 2014	共著	平成 25 年 7 月	中央法規出版	<p>(全体の概要)</p> <p>平成 21 年度から導入された社会福祉士の新カリキュラムに基づいて、社会福祉士国家試験の該当科目の各出題基準を徹底的に分析した上で、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的として、該当科目について3回分の模擬問題の作問と丁寧で分かりやすい解説が記載された受験対策図書である。</p> <p>(担当部分概要) 【問題編】 pp9(1 回目問題 12),pp79(2 回目問題 14),pp148(3 回目問題 14).【解説編】 pp6～7(1 回目問題 12),pp77～78(2 回目問題 14) ,pp150～151(3 回目問題 14).</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士共通科目「心理学理論と心理的支援」を担当した。社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編</p>
3. 精神保健福祉士 国家試験模擬問 題集 2014	共著	平成 25 年 7 月	中央法規出版	<p>(全体の概要)</p> <p>第 15 回精神保健福祉士国家試験の出題傾向に基づき、今までの出題形式に加え、2 択問題の作成、専門科目に事例問題を掲載した上で、近年の制度改正、最新の動向も加味した形で、実際の国家試験で出題される問題数と同様に、専門科目・共通科目全 163 問の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験合格に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
4. 社会福祉士国家 試験模擬問題集 2015	共著	平成 26 年 7 月	中央法規出版	<p>書である。</p> <p>(担当部分概要) 【問題編】 pp41～42(1 回目問題 74,77),pp118(2 回目問題 76), pp198～199(3 回目問題 78,79,80). 【解説編】 pp33～35(1 回目問題 74,77),pp114(2 回目 76),pp190～193(3 回目問題 78,79,80)</p> <p>精神保健福祉士専門科目「精神障害者の生活支援システム」を担当した。法改正された事項、社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編</p> <p>(全体の概要)</p> <p>第 26 回社会福祉士国家試験の出題傾向に基づき、該当科目の出題基準を徹底的に分析した上で、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的として、3 回分の模擬問題の作問と丁寧で分かりやすい解説が記載されている受験対策図書である。</p> <p>(担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp75(2 回目問題 13),pp148-149(3 回目問題 11,14).【解説編】 pp78(2 回目問題 13), pp150-152 (3 回目問題 11,14) .</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士共通科目「心理学理論と心理的支援」を担当した。社会的に注目されている事項、出題が予測される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
5. 精神保健福祉士 国家試験模擬問 題集 2015	共著	平成 26 年 7 月	中央法規出版	<p>編</p> <p>(全体の概要)</p> <p>第 16 回精神保健福祉士の出題傾向に基づき、今までの出題形式に加え、2 択問題の作成、専門科目に事例問題を掲載した上で、近年の法律や制度の改正、最新の動向も加味した形で、実際の国家試験で出題される問題数と同様に、専門科目の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図書である。</p> <p>(担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp95(2 回目問題 75),pp143～pp147(3 回目問題 74,75,79,79,80). 【解説編】 pp122～pp123(問題 2 回目問題 75), pp184～pp191(3 回目問題 74,75,78,79, 80).</p> <p>精神保健福祉士専門科目「精神障害者の生活支援システム」を担当した。法改正された事項、社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量が多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編</p>
6. 社会福祉士国家 試験模擬問題集 2016	共著	平成 27 年 7 月	中央法規出版	<p>(全体の概要)</p> <p>第 27 回社会福祉士国家試験の出題傾向に基づき、該当科目の出題基準を徹底的に分析した上で、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的として、3 回分の</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
7. 精神保健福祉士 国家試験模擬問 題集 2016	共著	平成 27 年 7 月	中央法規出版	<p>模擬問題の作問と丁寧で分かりやすい解説が記載されている受験対策図書である。 (担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp5～6(1 回目問題 12,14),pp78～pp79(2 回目問題 12,13,14). 【解説編】 pp5～6(1 回目問題 12,14),pp80～pp82(2 回目問題 12,13,14).</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士共通科目「心理学理論と心理的支援」を担当した。社会的に注目されている事項、出題が予測される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編</p> <p>(全体の概要)</p> <p>第 17 回精神保健福祉士国家試験の出題傾向に基づき、今までの出題形式に加え、2 択問題の作成、専門科目に事例問題を掲載した上で、近年の法律や制度の改正、最新の動向も加味した形で、実際の国家試験で出題される問題数と同様に、専門科目の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図書である。 (担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp99(2 回目問題 76),pp148-pp149(3 回目問題 75,76). 【解説編】 pp128～pp129(2 回目問題 76), pp192～194(3 回目問題 75,76).</p> <p>精神保健福祉士専門科目「精神障害者の生活支援システム」を担当した。法改正さ</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
8. 社会福祉士国家 試験模擬問題集 2017	共著	平成28年7月	中央法規出版	<p>れた事項、社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量が多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編</p> <p>(全体の概要)</p> <p>第28回社会福祉士国家試験の出題傾向に基づき、該当科目の出題基準を徹底的に分析した上で、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的として、3回分の模擬問題の作問と丁寧で分かりやすい解説が記載されている受験対策図書である。</p> <p>(担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp4(1回目問題9), pp72～pp73(2回目問題9,10,11).</p> <p>【解説編】 pp5(1回目問題9), pp78～pp79(2回目問題9,10,11).</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士共通科目「心理学理論と心理的支援」を担当した。</p> <p>社会的に注目されている事項、出題が予測される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会</p>
9. 精神保健福祉士 国家試験模擬問 題集2017	共著	平成28年7月	中央法規出版株式会社	<p>(全体の概要)</p> <p>第18回精神保健福祉士国家試験の出題傾向に基づき、今までの出題形式に加え、2択問題の作成、専門科目に事例問題を掲載した上で、近年の法律や制度の改正、最新の動向も加味した形で、実際の国家試験</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
10. 社会福祉士国家 試験模擬問題集 2018	共著	平成 29 年 6 月	中央法規出版	<p>で出題される問題数と同様に、専門科目の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図書である。 (担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp98(2 回目問題 76) 【解説編】 pp131～pp132 (2 回目問題 76)</p> <p>精神保健福祉士専門科目「精神障害者の生活支援システム」を担当した。法改正された事項、社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量が多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編</p> <p>(全体の概要)</p> <p>第 29 回精神保健福祉士国家試験の出題傾向に基づき、今までの出題形式に加え、2 択問題の作成、専門科目に事例問題を掲載した上で、近年の法律や制度の改正、最新の動向も加味した形で、実際の国家試験で出題される問題数と同様に、専門科目の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図書である。 (担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp70～pp71(2 回目問題 10,12,13) ,pp135(3 回目問題 11,12,14)【解説編】 pp82～pp85(2 回目問題 10,12,13), pp157～pp159(3 回目問題 11,12,14)</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
11. 精神保健福祉士 国家試験模擬問 題周 2018	共著	平成 29 年 6 月	中央法規出版	<p>社会福祉士・精神保健福祉士共通科目「心理学理論と心理的支援」を担当した。社会的に注目されている事項、出題が予測される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量を多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校協会</p> <p>(全体の概要)</p> <p>第 19 回精神保健福祉士国家試験の出題傾向に基づき、今までの出題形式に加え、2 択問題の作成、専門科目に事例問題を掲載した上で、近年の法律や制度の改正、最新の動向も加味した形で、実際の国家試験で出題される問題数と同様に、専門科目の模擬問題を 3 回分と丁寧で分かりやすい解説が掲載されている。国家試験に向けて、国家試験に近い形式で繰り返し学習することを目的とした受験対策図書である。</p> <p>(担当部分概要)</p> <p>【問題編】 pp52 (1 回目問題 77), pp97(2 回目問題 75) 【解説編】 pp66～pp67 (1 回目問題 77), pp134(2 回目問題 75)</p> <p>精神保健福祉士専門科目「精神障害者の生活支援システム」を担当した。法改正された事項、社会的に注目されている事項、出題が予想される事項、受験生が苦手とする事項を中心に作問した。解説は情報量が多いものの的確で分かりやすいようにした。</p> <p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(翻訳) 1. ストレス百科事 典第1巻	共著	平成 21 年 12 月	丸善	(全体の概要) ストレスに関する医学的、心理学的、社 会的な 545 項目の研究について、2007 年 に Elsevier INC から刊行された全 5 巻か ら成る百科事典 “ Encyclopedia of Stress, Second Edition” を翻訳した。 (担当部分概要)pp 463~466. ストレス百科辞典翻訳刊行委員会編 癌治療 <u>宮村 りさ子</u> ・石井 苗子 訳 F.I. Fawzy and A.L.Canada, N.W.Fawzy (2007) CancerTreatment. Encyclopedia of STRESS, 2nd. Ed. George Fink. volume1. を訳出した。 ストレス百科辞典翻訳刊行委員会編
2. ストレス百科事 典第4巻	単著	平成 21 年 12 月	丸善	(全体の概要) ストレスに関する医学的、心理学的、社 会的な 545 項目の研究について、2007 年に Elsevier INC から刊行された全 5 巻から 成る百科事典 Encyclopedia of Stress, Second Edition” を翻訳した。 (担当部分概要) 2218~2220 頁 白血球の GR(グルココルチコイド受容体) 感受性、慢性的な社会的ストレス <u>宮村 りさ子</u> 訳 A. Weizman and Rotberg (2007) Chronic Social Stress:GR Sensitivity in Leukocytes. Encyclopedia of STRESS, 2nd. Ed. George Fink.を訳出した。 ストレス百科事典翻訳刊行委員会編

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(ニュースレター) 1. 健康心理学的ア プローチによる 児童虐待の減少 と防止への取り 組み	単著	平成 26 年 7 月	日本健康心理学会	(全体の概要) 日本健康心理学会から発行されるニュー ースレターで、「ムーブメント」「トピック ス」「健康心理学の実践」「フロントライ ン」「健康心理士のフィールド」で構成さ れ、日本健康心理学会会員によって執筆さ れる。 (担当部分概要)pp4～5. 日本健康心理学会研究推進委員会から助 成を受けて研究を行っていることから、 「健康心理学の実践」の欄で、児童虐待防 止への取り組みとして以下の 5 項目の構 成で執筆した。 (1)児童虐待の背景,(2)児童虐待の定義,(3) 児童虐待の通告増加の経緯,(4)ソーシャル サポートによる児童虐待の減少と防止の 効果,(5)日本健康心理学児童虐待防止研究 部会の研究報告と研究方針 ヘルス・サイコロジスト No.64
(学会発表/口頭発表) 1. 児童虐待の養育 者の心理社会的 要因と児童虐待 防止への健康心 理学的アプロ ーチの試み	共同発 表 (口 頭)	平成 25 年 9 月	日本健康心理学会第 26 回大会 (北星学園大学)	自主シンポジウム 企画者：宮村 りさ子・久米 喜代美 司会者：宮村 りさ子 話題提供者：益子 行弘・土橋 祐巳子・ <u>宮村 りさ子</u> 指定討論者：関谷 大輝 日本健康心理学会研究推進委員会の承 認を得て、平成 24 年 10 月から児童虐待防 止研究部会の活動を開始し、平成 25 年 5 月に都内にてキックオフミーティングを 行った。この大会では、キックオフミー ティングの報告を行った。キックオフミー ティングでは、児童虐待防止に関わる 3 名の 専門家に講演をいただき、その後、3 つの

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
2. 誰でもできる児童虐待防止への健康心理学的アプローチ	共同発表（口頭）	平成25年9月	日本健康心理学会第26回大会（北星学園大学）	<p>グループに分かれて、ディスカッションを行った。住民がよく遭遇すると考えられる2つの場面を設定し、その時に、「やれること」または「できること」を挙げてもらい、KJ法でまとめた。キックオフミーティングの前後では、児童虐待の認知が変化することが分かった。</p> <p>日本健康心理学会第26回大会抄録 pp21.</p> <p>研究推進委員会シンポジウム：新生健康心理学の研究かくあるべし！</p> <p>企画者：日本健康心理学会研究推進委員会 司会：山田 富美雄</p> <p>話題提供者：安永 明智・小関 俊祐・上地 広昭・<u>宮村 りさ子</u>・満石 寿・西野 美佐子</p> <p>指定討論者：田中 共子・平井 啓</p> <p>児童虐待防止研究部会は、平成24年10月から1年間、日本健康心理学会研究推進委員会から助成を得ているため、児童虐待防止研究部会の目的、意義、期待できる効果、今までの活動報告、今後の活動予定について発表した。</p> <p>日本健康心理学会第26回大会抄録 pp34.</p>
3. ‘社会福祉職’としての支援の実際～福祉行政の現場からの声～	共同発表（口頭）	平成26年7月	東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科	<p>2014年7月12日(土)13時～15時 東京成徳大学八千代キャンパスにてシンポジウム「‘社会福祉職’としての支援の実際～福祉行政の現場からの声～（東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科主催、日本福祉心理学会・日本健康心理学会児童虐待防止研究部会後援）」を行った。</p> <p>企画・コーディネーター：関谷 大輝</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
4. 虐待認知と対処行動が児童虐待の減少と防止に及ぼす影響 – インフォーマルなソーシャルサポートへの期待-	口頭発表	平成 26 年 11 月	日本健康心理学会第 27 回大会(沖縄科学技術大学院大学)	<p>話題提供者：高岡 敏雄・塩田 学・寶田 宣亮・関谷 大輝</p> <p>指定討論者・コメンテーター：<u>宮村 りさ子</u></p> <p>全ての話題提供者は、児童相談所にて児童虐待に従事していたため、児童虐待の現状、児童相談所の役割と機能、児童虐待に対する思いや苦労など」を率直に話してもらった。シンポジウムの参加者は、児童虐待に関心のある対人援助職者、住民、大学生などであった。</p> <p>研究推進委員会からシンポジウム：健康心理学の研究成果から実践を動かす。</p> <p>企画者：日本健康心理学会研究推進委員会 司会者：井澤 修平</p> <p>話題提供者：竹中 晃二・山蔦 圭輔・満石 寿・<u>宮村 りさ子</u></p> <p>指定討論者：金 外淑・山田 富美雄</p> <p>日本健康心理学会児童虐待防止研究会は、平成 24 年 10 月に日本健康心理学会研究推進委員会から助成を得て、1 年間研究活動を行った。さらに平成 25 年 10 月から 1 年間研究活動を継続することが認められて、引き続き 1 年間助成を得ることになったため、児童虐待防止研究部会の目的、意義、期待できる効果、今までの活動報告、今後の活動予定について発表した。</p> <p>日本健康心理学会第 27 回大会抄録 pp51.</p>
5. 児童虐待防止のための心理学的子育て支援プログラム	共同発表（口頭）	平成 27 年 9 月	日本健康心理学会第 28 回大会（桜美林大学）	<p>研究推進委員会シンポジウム：健康心理学の研究成果を活用した実践の展開</p> <p>司会：田中 共子</p> <p>話題提供者：山蔦 圭輔・小関 俊祐・上地</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>6. 児童虐待に関連する心理社会的要因について</p> <p>・健康心理学的な視点から児童虐待の諸問題について考える・</p>	共同発表（口頭）	平成 28 年 11 月	日本健康心理学会 第 29 回大会（岡山大学）	<p>広昭・山野 洋一・<u>宮村 りさ子</u>・安永 明智・福島 明子</p> <p>指定討論者：平井 啓</p> <p>日本健康心理学会児童虐待防止研究会は、平成 24 年 10 月に日本健康心理学会研究推進委員会から助成を得て、1 年間研究活動を行った。さらに平成 25 年 10 月から 1 年間研究活動を継続することが認められて、引き続き 1 年間助成を得ることになったため、児童虐待防止研究部会の目的、意義、期待できる効果、今までの活動報告、今後の活動予定について発表した。なお、日本健康心理学会推進委員会の助成は、日本心理学会の規定により 3 年間の満期をもって終了となった。</p> <p>日本健康心理学会 28 回大会抄録 pp30～31.</p> <p>自主シンポジウム</p> <p>企画者：<u>宮村 りさ子</u>・久米 喜代美</p> <p>司会者：<u>宮村 りさ子</u></p> <p>話題提供者：加藤 麻里恵・福井 義一・松尾 和弥・<u>宮村 りさ子</u></p> <p>指定討論者：関谷 大輝・鈴木 平</p> <p>児童虐待は社会的問題として、減少や防止への取り組みが行われ、国民の児童虐待に関する関心や認識が高まっている。それらのことから、住民による児童虐待通告件数や養育者からの相談件数が増加し、平成 26 年度児童虐待相談対応件数は約 8 万人であった。本シンポジウムでは、3 名の話題提供者に研究報告をしていただくことで、健康心理学的な視点から児童虐待に関する様々な心理社会的な要因や諸問題に</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
7. 大学生の出生前 診断の意識とレ ジリエンスが障 害受容に及ぼす 影響	共同発 表（口 頭）	平成31年2月	第30回日本心身医学会 関東地方会	<p>ついて議論を深めた。</p> <p>話題提供のテーマは、「大学生の共感性、規範意識および親から受けた養育態度が虐待認知に与える影響」であった。児童虐待の防止の観点から、将来親になる可能性が高く、子どもを対象にした対人援助職になる可能性のある大学生および大学院生が児童虐待に対してどの程度正しい知識があるのか、どのように認知しているのについて把握し、児童虐待など子どもにとって不適切または危険な状況に遭遇した際に、声をかけたり児童相談所などに通告するなどの的確な言動を取ることができるように心理教育をする必要がある。そのためには、大学生や大学院生が児童虐待に対してどのような虐待認知をしているのか、個人の持つ共感性や規範意識、親から受けた養育態度が大学生の虐待認知に与える影響について把握することを目的とした調査の結果を報告した。</p> <p>日本健康心理学会 29 回大会抄録 pp16～17.</p> <p>宮村 りさ子・石井祐貴</p> <p>大学生が出生前診断への意識や知識はあるのか、レジリエンスによって障害児を受容できる傾向にあるのか調査することを目的として、某私立大学の文系の学生 86 名に自記式質問紙調査を行った。①村上理絵ら（2017）出生前診断に関する大学生の意識および知識、②齊藤和貴ら（2010）大学生用レジリエンス尺度「コンピテンス」「ソーシャルサポート」「肯定的評価」「親和性」「重要な他者」の 5 因子、③吉田照</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>(学会発表、ポスター発表)</p> <p>1. 抑うつと不安の生起に及ぼす不合理な信念と対処方略 –影響要因と相違の検討-</p>	共同発表 (ポスター発表)	平成 15 年 11 月	日本健康心理学会 第 16 回大会 (関西福祉科学大学)	<p>久ら (1992) 自己他者受容尺度「自己受容」と「他者受容」の 2 因子。【結果】協力の同意を得られた 47 名 (平均 20.64 歳 ± 1.07) から回答を得られた。「出生前診断の意義の理解」は性別に有意差が認められた。「出生前診断の意義の理解」とレジリエンスは、他者受容に影響を及ぼすのか階層的重回帰分析を行った結果、レジリエンスのいずれの因子も有意であった。【結論】出生前診断の意義を理解している女子学生は多いが、検査方法や診断後の流れ、メリットやデメリットを理解している女子学生は少ないことが分かった。女子学生において出生前診断を正しく理解し、レジリエンスによって障害児を受容できる可能性があると考えられる。</p> <p>宮村 りさ子・石川 利江・織田 正美</p> <p>抑うつと不安を引き起こす要因の 1 つに不合理な信念がある。不合理な信念を合理的な信念に変容させることができれば、抑うつや不安を軽減することができる。抑うつと不安の生起に及ぼす不合理な信念と対処方略の影響要因の相違について、大学生以上の成人 215 名を対象に調査を行った。他者に依存する人や無力感を持つ人は、抑うつと不安を生起する傾向がある。肯定的に問題を解釈すると抑うつが生起されないが、責任転嫁すると抑うつが生起される。肯定的に解釈をし、気晴らしをすると不安は生起されないが、回避的思考を</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
2. Mindfulness-based Stress Reductionによる気分の変容の効果	共同発表（ポスター発表）	平成16年9月	日本健康心理学会第17回大会（文化女子大学）	<p>すると不安が軽減されないことが分かった。</p> <p>日本健康心理学会16回大会発表論文集 pp158～159.</p> <p>宮村 りさ子・土橋 祐巳子・神庭 直子・依田 孝敏・石川 利江</p> <p>Mindfulness は仏教や意識的な注意と気づきが促されるような他の伝統的手段を基礎としており、最近では認知療法の一つとして注目されている。MBSR は Kabat-Zinn (1990) によってプログラム化され、心理的な問題だけでなく、医学的な疾患の治療に適用され、毎日45分程度のプログラムを8週間行うことで効果がみられる。しかし、日常生活の中で継続的に毎日プログラムを行うことは難しい。そこで、1回の介入でもMBSRの効果があるのか検証を行った。その結果、1回でも呼吸に注意集中を向けた瞑想をすることで、心身の健康を得られることが示された。</p> <p>日本健康心理学会第17回大会発表論文集 pp242-243.</p>
3. 看護生のストレス状況とその関連要因	共同発表（ポスター発表）	平成16年9月	日本健康心理学会第17回大会（文化女子大学）	<p>江藤 和子・宮村 りさ子・渡辺 真理子・藤井 智恵美・石川 利江</p> <p>看護職になるまでの教育の過程にある看護学生60名を対象に、ストレス要因を検討し、ストレス状況と自覚症状との関連について調査を行った。ストレス要因は、「心理的な学習の量的負担」と「勉強のやりがい」が最も多く、次に「心理的な学習の質的負担」と「身体的負担」が高かった。「心</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
4. ネガティブな反 芻と認知的統制 に対する抑うつ の変化・縦断調 査による検討	共同発 表（ポ スター 発表）	平成 17 年 9 月	日本健康心理学会第 18 会大会（神戸女学院大 学）	<p>理的な学習の量的負担」と自覚症状の「神経系」と「整形外科系」との関連が高かった。また、「心理的な学習の質的負担」と自覚症状の「感覚器系（眼）」「消化器系」「整形外科系」との関連が高かった。学習の量的および質的負担において、いずれも心身に不調を引き起こしていることが示唆された。また、仕事への責任や人間の生死に関わる緊張感などによるものが質的負担になっていると考えられる。今後は、健康教育としてリラクゼーション法を取り入れる必要があると考えられる。</p> <p>日本健康心理学会第 17 回発表大会論文集 pp442.</p> <p>宮村 りさ子・伊藤 義徳・石川 利江</p> <p>抑うつ症状の要因の 1 つとして反芻がある。反芻とは繰り返し起こる思考であり、抑うつなどの精神疾患を引き起こす。特に、ネガティブな反芻は他の心理的要因よりも抑うつの関連性が強い。Ozer&Bandura(1990)によると、認知的統制によってネガティブな気分をコントロールでき、抑うつ症状が変化すると考えられる。そこで、ネガティブな反芻と認知的統制によって抑うつ症状がどのように変化するのか縦断的に検討することを目的とし、大学生と大学院生を対象に 3 ヶ月間に 4 回の縦断調査を行った。その結果、物事の捉え方を柔軟に変容させることで、ネガティブな反芻による抑うつが軽減されることが示唆された。</p> <p>日本健康心理学会第 18 回発表論文集 pp83.</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
5. 女子大生のやせることと自尊心・自己効力感との関連性	共同発表（ポスター発表）	平成17年8月	日本ヒューマンケア心理学会第7回大会	<p>藤井 智恵美・宮村 りさ子・石川 利江</p> <p>BMIと体型認識、BMIと体型満足度、「やせること」と自尊心、自己効力感との関係について、都内女子大学生1,042名に対して調査を行った。実際のBMIと体型の認識は一致せず、実際より「太っている」と自己評価する学生が圧倒的に多かった。自己の体型に「満足」「やや不満」の群は、自尊心が高かった。「超やせ」群は、自尊心は高くないが、やせることに対する自己効力感が高かった。「超やせ」群は、やせることができるとしても、自己の体型に満足していないことが示唆された。</p> <p>日本ヒューマンケア心理学会第7回発表 論文集 pp71-72.</p>
6. 母親意識とソーシャルサポートがストレス反応に及ぼす影響	共同発表（ポスター発表）	平成18年9月	日本健康心理学会第19回大会（同志社大学）	<p>宮村 りさ子・関野 尚美・野上 まどか・須永 久恵・石川 利江・織田 正美</p> <p>父親の家事や育児への参加が高まっている。父親が家事や育児の共有意識を持てば、母親が父親から得るソーシャルサポートが大きくなり、母親は心理的サポートを得ることができる。母親意識と父親のソーシャルサポートのストレス反応に対する直接効果と緩衝効果について、肯定的な側面と否定的な側面で検討することを目的とし、幼稚園に子どもを通わせる母親114名に調査をした。肯定的な母親意識の高い人は、ソーシャルサポートを得ることで、ストレス反応が変化することが示唆された。肯定的な母親意識の低い人は、ソーシャルサポートを得ても、ストレス反応が変化しにくいことが示唆された。</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
7. 楽観性・悲観性が 精神的健康に与 える影響(1)	共同発 表（ポ スター 発表）	平成 18 年 10 月	日本行動療法学会第 32 回大会（東邦大学医学 部）	日本健康心理学会第 19 回発表論文 pp43. 宮村 りさ子 ・代田 剛嗣 精神のおよび身体的健康の要因として、 楽観性に焦点を向けた研究が注目されて いる。うつ傾向の人は、自己の失敗経験や 不全感の原因を、内的で安定した要因に求 める悲観的な原因帰属をする傾向がある。 楽観性および悲観性が気分はどう影響す るのか検討し、加えてネガティブな反芻や 認知的統制が与える影響を検討すること を目的とした。169 名の大学生と大学院生 に調査をした。その結果、ネガティブな反 芻はネガティブな気分に影響を与えるこ とが分かった。また、認知的統制によって、 ポジティブな気分を増加させ、ネガティブ な気分を軽減されることが示された。 日本行動療法学会大会論文集 pp236-237.
8. ネガティブな反 芻と認知的統制 が精神的健康に 及ぼす影響 - 潜 在曲モデルによ る検討-	共同発 表（ポ スター 発表）	平成 18 年 11 月	日本心理学会第 70 回大 会（九州大学）	宮村 りさ子 ・伊藤 義徳・石川 利江・織 田 正美 認知的統制の変化によって、ネガティブ な反芻による抑うつが 3 ヶ月間にどのよ うに変化するのか潜在曲線モデルによっ て検討することを目的とし、141 名を対象 に 3 ヶ月間に 4 回縦断調査を行った。抑う つの変化量の個人差は有意でなかったこ とから、心理的な介入をしない限り、抑う つが軽減されないことが示唆された。認知的 統制の変化量の個人差は有意および有 意傾向な正の値を示したことから、柔軟に 変化することが示唆された。また、コント ロールできる反芻をしていることが分か ったため、反芻をコントロールできるうち

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
9. ネガティブな反 芻の要因となる ストレス - 縦断調査による 検討	共同発 表（ポ スター 発表）	平成20年9月	日本健康心理学会第21 回大会（桜美林大学）	<p>に認知的統制をすることで、抑うつ状態を 予防できるといえるだろう。 日本心理学会第70回発表論文集 pp1004.</p> <p>宮村 りさ子・石川 利江 対人関係ストレスと達成課題ストレ ッサーが及ぼすネガティブな反芻と認 知的統制の抑うつに対する影響の違いを検 討することを目的に、93名の大学生と大 学院生を対象に調査をした。その結果、対 人関係ストレスと達成課題ストレ ッサー状況において、ネガティブな反芻と認 知的統制は1ヵ月後の抑うつ得点を予測 するが、2種類のストレスによる違い はなかった。ストレスの種類に関わら ず、ネガティブな反芻と認知的統制は抑う つに影響があると言える。 日本健康心理学会発表論文集 pp172.</p>
10. ネガティブな反 芻に関するスト レスと抑う つ・「対人関係」 と「達成業績」の 違いによる検討	共同発 表（ポ スター 発表）	平成21年6月	第1回日本心身医学5 学会合同集会	<p>宮村 りさ子・石川 利江・村上 正人・松 野 俊夫 対人関係ストレスと達成課題ストレ ッサーとの違いによる反芻と抑うつへの 影響の違いを縦断的に検討することを目 的として、都内私立大学の大学生と大学院 生113名に「ネガティブな反すう尺度」と 「自己評価式抑うつ尺度 SDS 日本語版」、 「ここ最近のストレスに感じる出来事」に ついての自由記述への回答を求めた。その 結果、「ネガティブな反すう傾向」におい て、対人関係ストレスと達成課題スト レスの違いによる反芻と抑うつに対 する影響の違いがみられ、2週間後の抑う</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
11. ジョインズ人格 適応型心理検査 (JPAQ)による 疼痛を訴える患 者の特性につい て	共同発 表(ポ スター 発表)	平成25年8月	日本交流分析学会第38 回学術大会	<p>つを予測することが示された。</p> <p>第1回日本心身医学会5学会合同集会発表 論文集 pp118.</p> <p>青木 絢子・宮村 りさ子・花岡 啓子・川 原 律子・石風呂 素子・中村 晶子・松野 俊夫・村上 正人</p> <p>ジョインズ人格適応型心理検査(以下、 JPAQ)を用いて、慢性疼痛患者の特性を把 握することを目的とし、都内大学病院心療 内科に通院中の疼痛を訴える36名に対し て、JPAQによる調査を行った。繊維筋痛 症患者19名とそれ以外の慢性疼痛患者17 名では、「生き延びるための適応型」の「魅 力的な操作者」については有意差が認められ た($p<.05$)が、「創造的夢想家」と「才 気ある懷疑者」については有意差が認められ なかった。「行動上の適応型」については、 いずれにおいても有意差は認められなかつ た。</p> <p>日本交流分析学術大会第38回大会 pp32.</p>
12. 痛みを主訴とそ る心療内科患者 に対する心理的 アプローチ	共同発 表(ポ スター 発表)	平成27年6月	第56回日本心身医学会 総会ならびに学術講演 会(タワーホール船堀)	<p>宮村 りさ子・青木 絢子・三輪 雅子・金 外 淑・石風呂 素子・丸岡 秀一郎・松野 俊 夫・村上 正人</p> <p>慢性疼痛患者は心理社会的ストレスが原 因で日常生活に支障を来すため、QOLが 低い。</p> <p>Nolen-Hoeksema(1991)らによると、反 芻する人は、嫌な出来事や問題を積極的 かつ計画的に問題解決しない傾向にあ る。慢性疼痛患者は、反芻しても認知的 統制やソーシャルサポートにより QOL</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
13. 児童虐待防止のための心理学的子育て支援プログラム-母親を対象にしたグループによる心理的効果の可能性-	共同発表 (ポスター発表)	平成 27 年 9 月	日本健康心理学会第 28 大会 (桜美林大学)	<p>が向上すると仮説を立てて検証することを目的とした。心療内科患者 90 名を対象に、「ネガティブな反すう尺度 (伊藤・上里,2001)、認知的統制尺度 (甘利・馬岡,2002)、健康関連 QOL 尺度 SF-36v(Medical Outcome Trust,2003)、日本語版ソーシャルサポート尺度 (岩佐・権藤ら、2007) を用いて調査した。その結果、慢性疼痛患者は痛みの症状に反芻する傾向があり、肯定的に捉えることができなくても、家族からのソーシャルサポートにより QOL が向上することが分かった。</p> <p>第 56 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会抄録集 pp752.</p> <p>宮村 りさ子・加藤 麻里恵・久米 喜代美・石川 利江・森 和代</p> <p>千葉県内公立小学校の子どもを持つ母親 9 名を対象に、児童虐待の減少や防止のための心理学的子育て支援プログラムを作成することを目的として研究を行った。プログラムの内容は、(1) プログラム開始前のストレスチェックとして抑うつ性自己評価尺度 (Self-Depression Scale:SDS,Zung W.K.,1965) の回答 (2) ストレスによる不安やイライラなどの軽減や人間関係改善などを目的とした認知行動療法の講義(3)自身が抱える問題や悩みについて各自思考記録表へ記入 (4) 子育ての悩みや不安、夫への不満など自由にディスカッション (5)プログラム終了後のストレスチェックとして抑うつ性自己評価尺度 (Self-Depression</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>14. グループを対象にした児童虐待防止子育て支援プログラム-認知行動療法群とディスカッショングループ群との比較</p>	<p>共同発表（ポスター発表）</p>	<p>平成28年6月</p>	<p>日本心身医学会学術講演会第57回大会（仙台国際センター）</p>	<p>Scale:SDS,Zung W.K.,1965)の回答 (6) アンケートの記入 (7) 振り返りであった。プログラム開始前後の抑うつ性自己評価尺度の平均得点を対応のあるt検定で分析した結果、有意傾向であった (t(8)=1.58,p<.10)。本研究では、プログラム参加後の抑うつ性自己評価尺度の平均得点があり傾向に低下したことから、プログラムに参加したことで、母親の子育てによるストレスが緩和され、PTA 活動と共にしている保護者との関係が心理的な支援になることが示唆された。</p> <p>日本健康心理学会第28回大会発表論文集 pp172.</p> <p>宮村 りさ子・三輪 雅子・石風呂 素子・金 外淑・釋 文雄・丸岡 秀一郎・松野 俊夫・村上 正人</p> <p>児童虐待の要因として、養育者が抱える子育てに伴うイライラや不安、不満、子育てによる社会的孤立、児童虐待と嫉妬との区別の曖昧さであると考えられる。本研究では、母親を対象に研究を行った。認知行動療法介入群として、日頃から PTA 活動と共にしている公立小学生の子どもを持つ母親9名を対象にプログラムを行った。ディスカッションによる非介入群として、神奈川県内の相談室にて0～18歳までの子どもを持つ母親を対象に行った。いずれもプログラムの前後に抑うつ性自己評価尺度(SDS)に回答した。介入群の SDS 得点は有意傾向に軽減した (t(8)=1.58, p<.10)であったが、非介入群の SDS 得点は軽減したものの有意でなかった。子育てに伴う</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
15. 保育士養成校での虐待認知 -身近な事例を用いたグループワークでの検討	共同発表 (ポスター発表)	平成 28 年 11 月	日本健康心理学会第 29 回大会 (岡山大会)	<p>イライラや不安、不満などは、認知行動療法による介入によって軽減されることが示唆された。ただ、ファシリテーターがいたとしてもディスカッションだけによる非介入では軽減されないことが示唆された。</p> <p>第 57 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会抄録集 pp752.</p> <p>久米 喜代美・<u>宮村 りさ子</u>・塩澤 史枝・森 和代・石川 利江</p> <p>保育士養成校に通う学生を対象に、身近な事例をもとに行われたグループディスカッションを通して、虐待認知の変化を検討した。その結果、「身体的虐待」「ネグレクト」「性的虐待」において 5%水準の有意差が確認され、「心理的虐待」は 10%水準で有意傾向であった。グループディスカッションを通して、虐待認知を高めることが確認された。</p> <p>日本健康心理学会第 29 回大会発表論文集 pp162.</p>
16. 虐待認知における性差の検討 -保育士養成校でのグループワークから-	共同発表 (ポスター発表)	平成 29 年 8 月	日本健康心理学会第 30 回記念大会 (東京大会)	<p>久米 喜代美・<u>宮村 りさ子</u></p> <p>保育士志望の男子学生の意識によると、子どもへの知識に男女でありあまり差がないものの、経験と態度に違いがある。男子学生は、「男性である」ことにとらわれ、女性とは異なる保育士を目指す傾向である。保育士養成校で学生を対象に、虐待認知に性差があるのか検討することを目的として調査を行った。地域住民が会う児童虐待を心配する場面」をもとにグループディスカッションとロールプレイングを行っ</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
17. ソーシャルサポートから見た心療内科受診患者の背景要因に関する検討	共同発表（ポスター発表）	平成 29 年 11 月	第 22 回日本心療内科学会学術大会（鹿児島大会）	<p>た。虐待認知が変化することも検証するため、前後に虐待認知尺度に回答を求めた。その結果、性差がないことが検証された。日本健康心理学会第 30 回大会発表論文集 pp143.</p> <p>宮村 りさ子・釋 文雄・丸岡 秀一郎・金 外淑・三輪 雅子・石風呂 素子・村上 正人</p> <p>心療内科患者群と健常者を対象として自記質問紙を用いて、ソーシャルサポート尺度（岩佐・権藤ら、2007）と健康関連 QOL 尺度 SF36V2 を測定した。心療内科受診患者は、健常群と比べて様々な人たちからのソーシャルサポートを十分に受けられていない可能性が示唆され、心身症発症および慢性化の背景の一つとなっている可能性が考えられた。また、ソーシャルサポートの低さと QOL の低下との関連が予想され、心身症の要因となっていることが示唆された。</p> <p>第 22 回日本心療内科学会学術大会 pp102.</p>
18. 地域での慢性疼痛患者やその家族に向けた心理教育的支援への取り組み	共同発表（ポスター発表）	平成 29 年 11 月	第 22 回日本心療内科学会学術大会（鹿児島大会）	<p>金 外淑・村上正人・松野俊夫・釋文雄・丸岡秀一郎・三輪雅子・石風呂素子・宮村 りさ子</p> <p>痛みの再発や再燃を繰り返すことの多い線維筋痛症患者（以下、FM）は、患者によっては、痛みの部位、強度、頻度にこだわりが大きすぎ、痛みに対する治療にいきづまることのあるため、心理教育的支援が難しくなる場合がある。より効果的な心理教育的支援を行うため、地域での日常生活重視への関わり方を優先した患者や家族参加型の心理教育的支援への取り組み</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
19. 心療内科患者の 痛みと QOL の関 連 -健常群との 比較による検討-	共同発 表 (ポ スター 発表)	平成 30 年 6 月	第 59 回日本心身医学会 総会ならびに学術講演 会 (名古屋国際会議場)	<p>を行った。心理教育的支援へのニーズが高い地域を対象に各地域で地域のニーズに対応した内容で、講演会・交流会・個別相談の 3 つの取り組みで行い、終了後に、患者・家族・講師の話し合いを行った。その結果、一人一人に合わせた生活支援の必要性が考えられた。</p> <p>第 22 回日本心療内科学会学術大会 pp108.</p> <p>宮村 りさ子・釋 文雄・丸岡 秀一郎・金 外淑・三輪 雅子・石風呂 素子・村上 正人</p> <p>心療内科患者の中には慢性的な痛みを訴え、QOL の低下している人が多い。心療内科患者の痛みが QOL に及ぼす影響を明らかにするため自記式質問紙による調査を行った。患者群と健常群を対象に改変型日本語マギル痛み質問表と健康関連 QOL 尺度 SF36v2 を用いた。マギル痛み質問表では「痛みの程度」を VAS、「痛みの種類」を選択言語総数とサブクラス数で測定した。選択的言語総数とサブクラス数は、感覚的言語 6 群 (深部性の鈍痛、浅部性の明瞭な痛み、牽引・麻酔、刺す、浸透性、熟成・拍動性)、感情的言語、評価的言語の 8 下位因子、SF36 は 8 下位因子を分析した。VAS、選択言語総数とサブクラス数では患者群が有意に高い傾向であった。SF36 は「身体機能」「体の痛み」「全体的健康感」「活力」「社会生活機能」「心の健康」のいずれの因子も健常群の QOL が有意に高かった。患者群と健常群ではいずれも慢性的な痛みを持つ人が多く、VAS の結果から患者群の方が痛みを強く感じており、選択言語総数やサブクラス数の結</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
				<p>果からさまざまな種類の痛みを併発し、痛みをネガティブに捉える傾向にあることから、心療内科患者の痛みが QOL に及ぼす影響が示唆された。</p> <p>第 59 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会抄録集 pp250.</p>